

聖書日課 『からし種』 2020.9.13-9.20

<p>9月13日 (日)</p> <p>詩編 37編</p>	<p>「主に信頼し、善を行え。この地に住み着き、信仰を糧とせよ」(3節)、「主は人の一步一步を定め、御旨にかなう道を備えてくださる」(23節)。今日の一步、新しい週に向かう一步をわたしはどちらに向けていくのか。主に信頼し従う道か、それとも主に背中を向けていく道か。主なる神さま。恐れ、惑い、迷い多い者に、あなたが語りかけ、従う力を与えてください。</p>
<p>14日 (月)</p> <p>詩編 38編</p>	<p>「もう立てないほど打ち砕かれ／心は呻き、うなり声をあげるだけです」(9節)、「主よ、わたしはなお、あなたを待ち望みます」(16節)。おそらく「重い皮膚病」に苦しめられ、心はうなり声をあげるだけという詩人が、それでも「なお、あなたを待ち望みます」と、賛美を主に向けている。どんな暗闇においても私たちの呻きを聞いてくださっている方に今日、心に向けて。</p>
<p>15日 (火)</p> <p>詩編 39編</p>	<p>「わたしは口を閉ざして沈黙し／あまりに黙していたので苦しみがつり／心は内に熱し、呻いて火と燃えた」(3-4節)、「ご覧ください、与えられたこの生涯は／僅か、手の幅ほどのもの」(6節)。呻きと苦悩に囲まれる時、私たちは語る言葉を失い、自らが生きる意味を見失う。ただ主なる神だけは一人ひとりの存在と苦悩に意味を与え、生かしてくださる方。</p>
<p>16日 (水)</p> <p>詩編 40編</p>	<p>「主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ…わたしの口に新しい歌を／わたしたちの神への賛美を授けてくださった」(2-4節)。泥沼の中に沈み、立ち上がれずにいる一人ひとりの傍らに、叫びを聞く方として来て下さった主イエス。このインマヌエルの主に新しい歌をいただいて、今日、神を賛美することができるように。</p>

<p>17日 (木)</p> <p>詩編 41編</p>	<p>「敵はわたしを苦しめようとして言います。『早く死んでその名も消え失せるがよい』」(6節)。私たちの口から出る言葉は、他者の命を深く傷つけ、奪うことさえできる刃。昔も今も、言葉の刃が私たちの間を飛び交っている。「いつも、塩で味付けられた快い言葉で語りなさい」(コロサイ4・6)。主イエスの十字架という塩で清められた言葉を、私たちは必要としている。</p>
<p>18日 (金)</p> <p>詩編 42編</p>	<p>「涸れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める」(2節)、「昼、主は命じて慈しみをわたしに送り／夜、主の歌がわたしと共にある」(9節)。毎日、不安や悲しみ、妬み、憤りに襲われ、揺れ動いている私たちの心は、うるおいの涸れた谷のよう。昼に、夜に、私たちを生かす慈しみと賛美を主が送ってくださるよう、祈りつつ歩みたい。</p>
<p>19日 (土)</p> <p>詩編 43編</p>	<p>「あなたの光とまことを遣わしてください。彼らはわたしを導き、聖なる山、あなたのいますところに／わたしを伴ってくれるでしょう」(3節)、「なぜうなだれるのか、わたしの魂よ。なぜ呻くのか。神を待ち望め」(5節)。主なる神の「光とまこと」が今日、一人ひとりの歩む道を照らし出し、導いてくださるように。神を待ち望む信仰に、固く立たせてくださるように。</p>
<p>20日 (日)</p> <p>詩編 44編</p>	<p>「我らはあなたゆえに、絶えることなく／殺される者となり／屠るための羊と見なされています。主よ、奮い立てください。なぜ眠っておられるのですか・・・目覚めてください」(23—24節)。この詩編の言葉は、十字架で殺されていくイエス・キリストを思い起こされる。主のゆえに、苦しむ時にも主の慈しみがわたしたちに注がれていることを信じて歩みたい。</p>